

ふくしまの 今

「もう一度がんばろう」
心が切り替わった瞬間

国道6号沿い、海が目前に広がる場所で「道の駅よつくら港」を運営してきたのは、まちづくりなどを行ってきた「NPO法人よつくらぶ」です。熱意ある市民の手で、四倉の「観光と交流の拠点づくり」を着実に進めて、いわき市初めての「道の駅」として平成22年7月に完全オープンしたばかりの被災でした。



☎0246(32)8075

いわき市の北部、四倉海水浴場のすぐ近くにある「道の駅よつくら港」。津波で大きな被害を受けましたが、今年の夏、新店舗で再スタートします。

津波に壁をさらわれた建物は、骨組みがむき出しになりました。大量のがれきとともに、船や網があらゆる場所に積み上がっているのを見て、駅長の白土健二さんは、「まさか、こんなことが…」とぼうぜんとするばかりだったといいます。

人の輪に支えられて復活！ 新生「道の駅よつくら港」始まります。

道の駅「よつくら港」●白土健二さん（いわき市）



(上)「道の駅よつくら港」は新店舗が完成するまで、大型テントで営業中。

(右) 震災前からずっと変わらぬ顔ぶれでがんばっているスタッフ。



地元産の野菜を手にした駅長の白土さん。新鮮野菜や毎日入荷する「おふかし」や「大福」もおすすめだそうです。

絆つないで

新地町社会福祉協議会では、仮設住宅入居者を支援する「サポートセンターまごころ」や、各地から訪れるボランティアを受け入れる「しんち町生活支援ボランティアセンター」の運営を通し、被災者に寄り添った支援を行っています。

新地町社会福祉協議会 [新地町]

☎0244(62)4213



▲手先の運動になると好評の小物入れ作り



▲参加者同士の会話も弾みます

高齢者が参加しやすい移動サロン。 語らいや作品づくりで楽しい時間を

サポートセンターまごころは、仮設住宅入居者を対象に相談受付やデイサービス、配食サービスなどを提供し、人々の生活を支えています。高齢者向けサロンの開催も活動のひとつですが、サポートセンターが仮設住宅地から離れていることもあり、参加者がなかなか集まりませんでした。そこで始まったのが8つの地域の仮設住宅地に日替わりで職員が出向く「移動サロン」です。開催場所の仮設集会所は各仮設住宅地内にあるため高齢者も参加しやすく、その内容も茶話会、小物入れ作りなど多様なものになっています。「友達との触れ合いを通して、閉じこもりの防止にもつながれば」とサポートセンターの荒礼子さんは笑顔を見せました。

4月28日には、ボランティア活動をきっかけに始まった「第4回マイタウンマーケット」が開催されました。これは仮設住宅に住む子どもたちが仮設住宅地を“町”に見立て、1日限定のカフェやスーパー、アクセサリー屋などを開くもので、ボランティアセンターもそのお手伝いをしてきました。今では子どもたちが運営の主体となって、仮設住宅地の元気に一役買っています。

社会福祉協議会と地域の人々が力を合わせ、復興へと歩んでいる新地町。今後もその活動に注目が集まります。



▲地域住民も訪れ賑わうマイタウンマーケット



▲サポートセンターまごころの荒礼子さん(左)ら



▲小物入れ作りに苦戦しながらも「夢中になりました」と参加者

●おわびと訂正

前号・ゆめだより4月号「絆つないで」の記事(本文11行目)で、臨時災害FMの周波数を「76.7MHz」と紹介しましたが、これは誤りで、正しくは「76.9MHz」でした。おわびして訂正いたします。

自宅も流された白土さんは、被災直後、東京へ避難しました。「もう再開できないだろう」と思いながら四倉に戻った昨年4月初旬、市民活動の「海山交流事業」でつながりがあった三島町や道の駅裏磐梯の関係者などから、百人以上の人が、「道の駅」周辺の片付けに来てくれたのです。一緒に汗を流すうちに、白土さんは「もう一度がんばってみよう」と気持ち切り替わっていきました。水も電気も不通のなか、土日だけの仮営業を始めたのは、その後すぐ、4月17日のことです。

前向きに取り組んで 「恩返し」につなげたい

商品の不足は、会津地方や石川地方の「道の駅」や、地元を生産者からの協力を得て乗り切りました。7月には平日も営業を開始。新店舗建設のめどが付いたことで今年1月からは大型テントに店舗を移しました。四倉漁港の水揚げがないので名物のホッキ貝は販売できませんが、店頭にはできるだけ地元の魅力を伝える商品をそろえました。広い売場には、会津地方の商品

や全国各地からの「応援商品」なども並べています。

「今ここで、できることを前向きにがんばる。それがお世話になった方への恩返しになるはずだから」。そう信じ、新店舗の準備に忙しい毎日を送っています。

この夏完成する新店舗の柱には、多くの人から寄せられた「応援メッセージ」の陶板を貼り付ける予定です。



(左) 道の駅に立ち寄った人が残した応援メッセージを陶板にして、新店舗の柱に貼り付ける予定。

(下) この夏完成する新店舗イメージ。1階に直売所、2階に飲食店が入居予定。

